

【田無第三中学校の将来像 グループワーク等での主な意見】

〔多様性〕

- からだも心もバリアフリーの学校(多様性を受け止められる学校)
- 様々な世代が集い、交流・活動できる学校
- 汎用性や共用性を高め、スペースをフル活用した学校

〔開かれた場〕

- 卒業後や地域に転入してきた方が行きたくなる学校
- 生徒の放課後利用や地域の人が気軽に利用できる憩いの場となる学校(MUFG パークのライブラリー)

〔安全性〕

- 地域の人が入りやすい空間でどのように十分な防犯対策を講じていくか
- 外部者を排除せずたくさんの目で子どもを見守る学校
- 開放的であって、目が行き届く学校
- 巨大地震等に備えた防災拠点になる学校

〔教育・学習〕

- 近代化が図られている学校(エレベーター・タブレット端末を使用した最新の教育など)
- 生まれてから年をとっても学べる学校(いつでも行けば何かが学べる学校)
- 情報メディアセンターの機能(図書館、カフェ)
- 様々なギモンが生まれ、探究的な学びができる学校
- 地域資源・地域人材を活用した学習活動を行う学校
- 自然を地域の特性とし、多摩六都科学館を学校づくりのイメージとする
- 授業外でも子どもの個性を伸ばすことができる学校

〔居場所・憩いの場〕

- 生徒のいやしができるような学校
- 生徒が放課後もののびのびと過ごせる学校
- 屋上が憩いの場・語らいの場・癒しの場となる学校
- 不登校の子どもが、人目を気にせず、勉強や自由な時間を過ごせる学校
- 西原の地の特性を生かした学校

[地域イベント]

- 地域の特性を生かしたイベント(祭り、FM ラジオ局など)を行える学校
- 地域の方の専門性を生かした場(茶道・理科・生け花など)

[地域コミュニティの形成]

- 子どもから地域に触れ合える学校
- 世代がつながる地域のコミュニティの場(現状、エリアに地域センターのような施設がない)
- 心がつながり、やさしい気持ちや思いやりの気持ちをもてる学校
- 学年を越えたつながり／地域とのつながりがある学校
- 保育園や児童館等が併設された多世代交流ができる学校